

農作物技術情報 第7号の要約

令和3年 9月30日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	技術対策 成熟期は平年より5日早く達しており、刈取適期を過ぎつつあるので、速やかに刈取り作業を進める。 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努める。 日没が早まる時期なので、作業は計画的に進め、安全な農作業を心掛ける。
畑作物	生育概況 ：大豆の登熟は順調に進み、黄化・落葉が始まっている。今年は湿害発生が少なく、生育が旺盛で葉色が濃い圃場が多く、害虫による葉の食害が目立つ。 技術対策 大豆 ：雑草や青立ち株の抜き取り、コンバインの整備等、収穫作業に向けた準備を整える。 小麦 ：越冬前に十分な生育量が確保できるよう、適期播種を行う。圃場条件が整わない場合は、適期を逃しても無理な播種作業を行わず、播種量を増やして対応する。
野菜	生育概況 ：どの品目も終盤を迎えている。露地きゅうりは成り疲れや気温低下の影響と病害の発生により、収穫終了となる圃場が増えている。トマトは摘芯が終了し、裂果が増えているものの草姿は良好な状態。ピーマンも赤果の発生が見られるが草姿・着果は良好。雨よけほうれんそう、ねぎは生育良好で、順調に出荷されている。キャベツ、レタスは、定植時期の高温やその後の気温低下の影響により緩慢な生育で小玉傾向となっている。 技術対策 施設果菜類 ：気象条件に応じたハウスの適切な温湿度管理に努めるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防を徹底する。 露地果菜類 ：きゅうりは病葉や古葉などの摘葉を中心とした草勢維持のための管理とする。栽培終了後は次年度へ向けた準備として資材消毒を行うほか、萎れが見られたほ場ではキュウリホモプシス根腐病の残さ診断を積極的に行う。 葉茎菜類 ：雨よけほうれんそうは年内収穫用にもう1作播種し、適切な温度管理と病虫害防除を徹底する。ねぎは計画的な土寄せと適期防除を行う。キャベツ、レタスは適期収穫に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。 冬春野菜 ：寒じめほうれんそうは品種特性に合わせて適期に播種し、温度管理を徹底する。促成アスパラガスは、低温遭遇時間（5℃以下の積算遭遇時間で90時間以上）を目安に適期に掘り上げを行う。
花き	生育概況 ：りんどうの彼岸需要期用品種は平年並～やや早い開花。同じく小ぎくは概ね需要期に開花となった。病虫害については、りんどうでは黒斑病、葉枯病が全域で発生がみられ、小ぎくではアブラムシ類が増加傾向となっている。 技術対策 りんどう ：今後も花腐菌核病やアブラムシ類等の病虫害防除を徹底する。 小ぎく ：収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保する。
果樹	生育概況 ：りんごの果実生育（横径）は、県平均で平年並みからやや小さい。中生種の「ジョナゴールド」の熟度の進みは平年並み。 技術対策 りんご ：4月の凍霜害の影響で果実の熟度にバラつきが見られるため、すぐりもぎを徹底する。10月は台風シーズンなので、気象情報に注意し、事前対策の徹底を図る。
畜産	生育概況 ：3番牧草の生育は平年並。飼料用とうもろこしの収穫が最盛期であり、収量は平年並からやや良と予想される。 技術対策 飼料用とうもろこし ：収穫が始まっている。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進める。 牧草 ：刈り取り危険帯の時期が近づいている。この時期は収穫や施肥を避ける。 獣害対策用電気柵 ：次年度設置を考えて撤収方法を工夫する。 家畜(牛) ：秋に増える牛の疾病に注意する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○9月15日～11月15日秋の農作業安全月間「全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業」

次号は令和3年10月28日(木)発行の予定です